

行政視察報告書

令和6年10月7日

委員会名		議会広報広聴常任委員会
参加者	委員長	鈴木 和 宏
	副委員長	栗 畑 寿一朗
	委 員	城 戸 佐和子 稲 永 朝 美 池 田 彩 乃 中 野 正 幸 大 川 晋 作
期 間		令和6年8月7日（水）～8日（木）
視察地、 調査項目 及び概要	山形県 天童市	1 議会報告・意見交換会（中高生との懇談会を含む）について （1）本市の現状と課題 本市議会の広聴活動としては、議会報告会の一つの形として小中学生を対象とした議場見学会を開催するほか、市民へのアンケート調査の実施が中心となっている。今後は、より効果的な取組方法や、より幅広い世代に対するの広聴活動を見据え、検討しているところである。 （2）調査目的 本市が対象としていない高校生や、さらに幅広い世代に対するの事業を行っている先進市の事例を視察し、事業の運用までの経緯、取組状況、周知方法、効果、課題等について調査することを目的とする。 （3）調査概要 天童市議会では、広報委員会ではなく議会運営委員会において、議会報告・意見交換会の開催の判断や具体の運営方法を協議し、議長を除く全議員により取り組んでいる。開催の周知には、市議会だよりはもとより市公式Facebook、市一斉メールなど多岐にわたる広報媒体を用いており、令和6年5月までに計21回開催してきた。基本的に市内の小学校区単位で開催をするものの、中学校区単位での開催や、各種団体等と常任委員会との意見交換会、さらに近年では、ワールドカフェ方式（会場を1か所にまとめ、各メンバーを入れ替えてディスカッション）やグループごとに別テーマを話し合う方式など工夫を重ねた意見交換会を実施していた。本事業では地域の課題や共通のテーマを設けて意見交換を行っているが、参加者が少なく固定化していることや、市民からの意見等の活用方法（政策立案等）について検討することが課題であるとしている。 さらに、若い世代の参加がほとんどないことから、令和4年から市内にある中学校4校及び高校2校の生徒と意見交換会を開催するなど実施したとのこと。学校側の協力もあり、円滑な意見交換が実現できており、議会報告会・意見交換会では聴くことができない若い世代の願いや思い、考え方などを直接聴くことができ、大きな成果を得ているとしている。 2 考察 天童市議会では、議会報告・意見交換会の開催に当たり開催方法をその都度協議・検討の上、市民との意見交換に取り組んでいる。議会報告・意見交換会における参加者の少なさや固定化などの課題を契機とした、若い世代との意見交換の機会創出など、これまでの広聴活動

		の在り方に対し異なる視点からのアプローチを加え、事業を展開し続けていることについて具体的に調査できたことは、今後の本市議会における広聴活動の検討に向け参考となるものであった。
視察地、 調査項目 及び概要	山形県 米沢市	1 議会報告会・意見交換会について (1) 本市の現状と課題 前述のとおり、本市議会の広聴活動としては、議場見学会、市民へのアンケート調査の実施が中心となっている。今後は、より効果的な取組方法や、より幅広い世代に対しての広聴活動を見据え、検討しているところである。 (2) 調査目的 幅広い世代を対象に議会報告会・意見交換会を実施している先進市の事例を視察し、事業の運用までの経緯、取組状況、周知方法、効果、課題等について調査することを目的とする。 (3) 調査概要 米沢市議会では、議会における活動の説明、市民との意見交換を行うため、議会報告会・意見交換会を令和6年度までに計12回開催してきたが、開催の形式及び内容を第6回以前と第7回(平成29年度)以降とで変更している。さらに、当初はテーマを設定せず開催していたものの、第3回以降は、あらかじめ「人口減少」、「防災」及び「地域課題」のテーマを設定し開催した。第5回以降は、各地域からテーマを募集した上で各コミュニティセンターを会場として開催した。市民からの意見は、市の担当部署ごとに取りまとめ、市当局へ回答を依頼した後、市当局からの回答内容は市議会だよりに掲載している。また、第7回以降については、3常任委員会ごとに任期の2年間におけるテーマを設定し、市民と当該テーマに基づく意見交換を行っている。本事業では、参加者を増やすこと、より充実した意見交換会とするために、グループに分かれていても市民の意見を引き出す統一した手法を持つこと、若い世代に参加してもらう工夫をすることなどが課題であるとしている。 2 中学校出前市議会について (1) 本市の現状と課題 本市においては令和3年度から議会報告会の一つの形として小中学生を対象とした議場見学会を行っているが、より効果的な開催や幅広い世代に対しての広聴活動を見据え、検討していく必要がある。 (2) 調査目的 本市では、小中学生を議場見学会事業の対象としているものの、これまで参加の実績がない中学生に対して事業を行っている先進市の事例を視察し、事業の運用までの経緯、取組状況、周知方法、効果、課題等について調査することを目的とする。 (3) 調査概要 米沢市議会では、選挙権の年齢が満18歳以上に引き下げられたことを契機に、議員が中学校に出向き、中学校出前市議会を開催することとした。内容としては、「朗読劇」として、議会の役割や定例会の開催、議員の活動等について説明した後、中学生が身近に感じられる事項を取り上げ、議会ではどのように扱われるのかについて、議員が寸劇を実演して説明を行う。「朗読劇」を終えた後、中学生が議員と質疑応答するコーナーを設けるほか、疑似投票として、架空の議案の賛否と中学校出前市議会の感想を投票用紙に記入してもらい、投票用紙を実際に投票箱に入れてもらうことなども行っている。コロナ禍におい

		ては、「朗読劇」を動画にした「放送劇」でのオンライン開催も行ったが、コロナ禍の後には、再び多くの学校に議員が出向き開催できるようになっている。 また、本事業において、中学生の感想等からは議会の役割や議員活動への理解、選挙への関心が深まったことなど、米沢市議会が目的としていることを中学生にも理解してもらっており、一定程度の成果が得られているとしている。 3 考察 米沢市議会では、議会報告・意見交換会の開催回数を重ねていく中で、開催の形式及び内容について適宜見直しを図り、様々なアプローチや工夫を凝らして取り組んできた。これまでの見直した内容に係る着眼点などを具体的に調査できたことは、今後の本市議会における広聴活動の検討に向け参考となるものであった。 また、米沢市議会における中学生出前市議会を調査することで、本市議会における議場見学会が有意義な事業であることを改めて認識するとともに、今後の若者世代への広聴活動を検討するにあたり参考となるものであった。
--	--	---